

羽咋市の折口マップ



折口博士 句碑
 気多大社の社叢裏の堀のそば
 「くわっこの なく村すぎて 山の池」



折口博士 父子の歌碑
 気多大社鳥居の脇
 右が折口信夫、左が藤井春洋の歌碑。



折口博士 父子の墓
 旧一ノ宮織物工場の裏 藤井家墓所
 昭和24年7月建立、春洋の遺品を納める。
 折口信夫の死後、折口の遺骨も納められる。



藤井家 春洋の生家
 藤井家は、気多大社の社家で眼科医を営んだ。
 前庭にはタブの木がそびえる。



羽咋市歴史民俗資料館
 羽咋すこやかセンター近く
 二階展示室に折口父子関係資料を展示。



羽咋高校 校歌の碑
 羽咋高校 前庭
 昭和26年3月作製。折口直筆の歌詞を刻む。

気多のむら 若葉くろろずむ時に来て

遠海原の音を聴きをり

迢空

春畠に菜の葉荒びしほど過ぎて

おもかげに 師をさびしまむとす

春洋

折口信夫博士

筆名 釋迢空



(1887 ~ 1953)

明治二〇年二月一日大阪府に生まれる。明治四三年國學院大學を卒業、大阪で中学校教師ののち國學院大學に勤め、国文学、民俗学、芸能学、言語学と研究分野を広げる。大正十年教授に就任。昭和三年慶応大学教授を兼任、昭和七年文学博士となる。一方で、歌人として詩歌の才能に優れ、独自の歌風を確立、多くの歌を残した。生涯独身であったが、門弟の鈴木金太郎、藤井春洋らと同居。春洋は第二次世界大戦において、硫黄島で戦死。折口はその直前に、春洋を養子とした。昭和二四年、春洋の生地である当地に父子墓を建立。昭和二八年九月三日逝去。

折口春洋先生



(1907 ~ 1945)

明治四〇年二月二八日羽咋郡一之宮村（現羽咋市寺家町）に、藤井家の四男として生まれる。金沢第一中学校を経て、大正一四年國學院大學予科入学。折口信夫の指導を受け、短歌結社「鳥船」に入り、やがて師の家に内弟子として同居、研究を支えながら、自らも多くの歌を残す。昭和一六年、國學院大學予科教授に就任。数度の召集を受け、昭和一九年七月、硫黄島に着任。そこで折口の養子となるが、昭和二〇年三月一七日、戦死。没後、陸軍中尉の報が届く。春洋が残した歌は、戦後、折口と弟子たちによって纏められ、歌集『鵠が音』として出版された。

折口父子記念会

折口父子記念会は、羽咋市ゆかりの国文学者、民俗学者、歌人の折口信夫博士（釈迢空）、折口春洋父子の顕彰を通して、郷土文化の振興・発展に寄与することを目的に設立されました。

設立 昭和40年9月3日

組織 歌会部会 毎年9月の命日に合わせ、折口短歌大会を開催・運営しています。

保存部会 折口父子の資料保存や記録、顕彰のための行事や周辺整備を行っています。

本会の活動に興味をお持ちの方は、お気軽にお問合せ下さい。

折口父子記念会事務局
 電話 0767-22-9331
 （羽咋市教育委員会生涯学習課内）

※本リーフレットは、令和4年度羽咋市市民憲章推進基金助成金を活用して作成しました。

折口博士父子の墓

もつとも苦しき
 たたかひに
 最くるしみ
 死にたる

父 信夫
 折口春洋
 父 信夫
 折口春洋
 父 信夫
 折口春洋

むかしの陸軍中尉
 ならびにその
 の墓

昭和23年9月、折口は春洋の死を受け入れ、墓を建てることを決意、羽咋で墓石を求め、春洋を鎮魂する墓碑銘を書き、父子の墓としました。昭和24年7月、墓の除幕式が行われ、春洋が愛用した軍刀などが納められました。昭和28年9月3日、折口信夫が死去。遺骨は生前の希望により春洋が眠る父子の墓に納められました。折口の命日の年祭には、二人をしのんで今も多くの人が父子の墓を訪れ、折口が心を寄せた「タブノキ」の青葉が手向けられています。